

# Nonlinear and Time-Varying Volatility Dynamics of Economic Time Series in Financial Markets

バラ アブドゥラヒ, ダヒル

<https://hdl.handle.net/2324/1543927>

---

出版情報：九州大学, 2015, 博士（経済学）, 課程博士  
バージョン：  
権利関係：やむを得ない事由により本文ファイル非公開（3）

氏 名	バラ ダヒル アブドゥラヒ (BALA, DAHIRU ABDULLAHI)		
論 文 名	Nonlinear and Time-Varying Volatility Dynamics of Economic Time Series in Financial Markets (金融市場における経済時系列の非線形性と時変ボラティリティ動学)		
論文調査委員	主 査	九州大学	准教授 瀧本太郎
	副 査	九州大学	教授 古川哲也
	副 査	九州大学	教授 大西俊郎

### 論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本論文は、途上国および先進国のマクロ・金融市場データに対して非線形時系列モデルを用い、アジア金融危機やリーマンショック等の大きなショックが市場に与えた影響および各市場への波及経路について分析したものである。

第1章では論文の全体構成と問題意識が提示されている。第2章から第4章で行っていることは、1変量モデルを用いた金融市場の分析である。第2章では、ボラティリティのレジーム変化を分析し、第3章では、8カ国の株価指数(週次)を用いて、リーマンショック等の影響を定量的に評価している。第4章では、複数モデル間の予測誤差の比較を行っている。

多変量モデルによる分析が行われるのが第5章から第7章である。第5章では、ナイジェリア、日本、アメリカ、中国、香港、ドイツ、イギリス、ブラジルの月次株価指数に対して、金融危機の際に株式市場のボラティリティがどのように伝播していったのかを解明している。得られた知見は、(1)新興国の市場間の波及効果は、先進国の市場間に比べて大きくないこと、(2)新興国市場では、市場間のスピルオーバーよりも自国市場の要因が強いこと、である。第6章では、ボラティリティのインパルス分析により、2013年4月の日本銀行による量的・質的緩和の際に、その影響が、円ドル・ポンドドル・ユーロドルの各市場間で非対称であること、ポンド・ドル為替レートにはほとんど影響がなかったことを明らかにしている。第7章では、ナイジェリア中央銀行の政策変更の影響を分析している。最後の第8章では、分析の結論と政策含意、今後の課題がまとめられている。

当該分野には先進国を中心に多数の先行研究があるが、本論文は慎重に予備的検定を行い、また複数モデル間の比較を丁寧に行ったうえで結果の解釈を行い、市場間のつながりに対する頑健な結果を提示している点に特徴があり、途上国の金融市場をめぐる研究に新しい知見をもたらしているものと評価できる。また、多数の先行研究を手際よくまとめている点、モデル選択について応用分析に有益な指針を提供することにも一定程度成功している点も評価に値する。

以上の点から、本論文調査会は、バラ ダヒル アブドゥラヒ氏から提出された論文“Nonlinear and Time-Varying Volatility Dynamics of Economic Time Series in Financial Markets”を博士(経済学)の学位を授与するに値するものと認める。